

「第4回 クリエイティブ・サービスにおけるアジア・米国比較ワークショップ 参加報告書」

京都大学経済学部・研究科5年 近藤隼人

① 学習成果

これまでゼミでの活動の一環として、シリコンバレーの経緯や風土、スタートアップ企業を育成・循環させるエコシステム、それらの日本との比較に関する文献にあたり、発表や議論をしてきた。今回の研修ではそうしたこれまで学んできたことを自分の目で確かめることができる絶好の機会となった。シリコンバレーの地で実際に企業を立ち上げる人、投資をする人、研究機関で学ぶ人たちが何を考え、行動しているか、そして日本がどのように見られているかを聞くことができたのは、本やネットからは学ぶことができない貴重な経験であった。アントレプレナーシップを学ぶ上で、これまで端的に日本とアメリカの2項対立で比較して学習してきたが、人材の流動が激しく、またインドや中国からの移民も多いシリコンバレーではそうした一般化やカテゴライズをすることは不可能かつ無意味であることに気付くことができたのは、アントレプレナーシップだけでなく、今後様々なことを学ぶ上で有意義であった。とりわけ、現在卒業論文を執筆している身分としても、文献や先行研究、ネットの情報だけを頼りに机の上で仮説構築・検証して論をまとめるのではなく、経営学という人間の意思決定という不確実性が高い要素を含む学問を学ぶ以上、実際に対象企業にヒアリングに行き、仮説構築を行うことの重要性も実感した。さらには、日本での起業を促進する上で、単に成功事例としてのシリコンバレーでの方法論や手段をそのまますべて転用しても効果は無く、日本の起業環境で変えるべきところと保存すべきところを分別する必要があることを学んだ。

以上はマネジメントを学習する学生としての考え方の変化であるが、私個人としての今後を考える上でも影響を受けた部分が多くあった。私は半年後には卒業する身であるため、これから学生のうちに留学に行くことは不可能である。しかし、カリフォルニアベイエリアの企業や大学に訪れたこと、特に一度社会に出てから現在 UC バークレーのビジネススクール (HaaS) に通われている日本人の学生の方とお会いして、自分も一度社会に出てから海外大で MBA 取得したいと志向するようになった。これはかねてから考えていたことであったが、「実際に働きだすと忙しくなるし結局行動に起こすことはないだろう」と半ばあきらめていたことであった。しかし、社会人として自らの目線を国内だけでなく海外にも向けるため、世界中から集まる様々なバックグラウンドを持った人々と交流し、視座を高めるためにやはりかねてからのある種の夢を実現させてやろうという思いを強く持つようになった。

② 海外での経験

私は以前カナダで半年間、語学留学をしていたのだが、今回の研修と当時の留学では同じ「海外経験」といえど実際に経験したこと・得られたものには相違点が多くあった。

まず、現地の第一線で働く人々や世界的な名門大で教鞭をとられている人々、学ぶ人々の生の声を聴いたことである。規模の大小、業種もそれぞれ違う多様な企業で働く人々のお話を伺うことは、日本国内でもそうそうない機会であるが、今回の研修では短い期間でそれが達成することができた。大企業かスタートアップか、それらを VC として補助的な立場にあるか、各々の立ち位置によって考え方やシリコンバレーの現状の見方が異なっていたことは大変興味深く感じた。

また、今回は自身の英語でのコミュニケーション能力についても考えさせられることが多かった。それを最もはっきりと感じさせられたのは、スタンフォード大学の博士課程の学生の方々と討議した時である。前回の留学を経て、英語を使うことへの恐怖心や恥のようなものは払しょくすることができたし、カジュアルな会話であればある程度こなせるようになった。しかし、より専門的な内容やビジネスの話となるとやはりまだまだ語彙力不足などから自分の意見をうまく表現することができなかった。更に、相手方の学生は英語能力を考慮してもなお、議論をすることに非常に慣れているなという印象があった。相手方の専攻分野はエンジニアリングで、しかもこっちは自らのフィールドで発表のため十分に準備をして議論に臨んだのだが、発言量・発言力は圧倒的に劣っていると感じさせられた。相手の意見を聞いて解釈した上で賛成や反対という立場を示した上で自らの意見を述べる、それも英語で。こうしたことができるようになるにはまだまだ努力が足りていないと感じたが、今後社会にでて世界中の人を相手にビジネスしようと思うと、こうした能力を身につけることは必須であるので今後とも積極的に取り組みたいと思う。

③ プログラム内容

カリフォルニア・ベイエリアの大企業・スタートアップ企業・ベンチャーキャピタル・大学研究機関等に訪れ、見学やプレゼンテーションの拝聴、議論などを行った。

9/16 PM Erjon Adem 氏宅訪問

9/17 10:00~15:00 坂本大氏 “シリコンバレーの現状と今後” 講義
PM スタンフォード大見学

9/18 AM Google 本社訪問討議 (Mei Han 氏, Jun Tatemura 氏)
PM Apple 本社(Infinity loop)訪問討議 (Komei Harada 氏)
夜 京大同窓会出席 (洛友会)

9/19 @San Francisco
AM Rent the Runway (シェアリングエコノミー) ヒアリング
PM Runway (アクセラレータ) 訪問討議
Ario 社 (スタートアップ) 訪問討議
夜 Prof. Gio Wiederhold 氏(スタンフォード大名誉教授)宅訪問

9/20 AM SKU Chain(スタートアップ)訪問討議
PM Stanford 大 Engineering PhD 学生への発表・討議
Stanford 大 Social Innovation Lab 訪問討議
夜 Satoshi Matsushita 氏との会食

9/21 @UC Berkeley 校
AM Prof. Henry Chesbrough 氏訪問討議
PM Haas ビジネススクール学生 Isei Nakae 氏訪問討議
Prof. Kimiko Ryokai (iSchool)氏訪問討議

9/22 AM Square 1 bank (SVP Laurie Lument 氏) 訪問討議
Sustainable Silicon Valley 訪問討議
PM Plug and Play (Izuma 氏)訪問討議討議
Woodside Capital Partners (VC/Investment bank) (Shusaku Sumida 氏)訪問討議
夜 坂本大氏とのラップアップ

④ 進路への影響

1でも述べたように、私は既に就職活動を終え、大学生活も残り少ないものとなった。そのため、今回の研修では学ぶことも刺激を受けることも非常に多くあったのだが、今さら卒業後の進路を大きく変えることはできないのが現実である。しかし、社会に出てからどうありたいか、どのようなキャリアパスを描きたいかについては大きな影響を受けた。就職活動を経て、知らず知らずの内に視野が狭くなり、海外に積極的に出ていく姿勢が失われ、自らのキャリアパスの選択肢を自ずと狭めてしまっていたかもしれないと今振り返ると思う。転職や海外留学といったことが自分の興味を惹くこと、自分が本当にやりたいことであるならば躊躇せずに一歩踏み出せるような姿勢を意識し、後で「あの時こうすればよかった」と後悔することがないように自由なキャリアパス描けるようにしたい。幸い私の就職先は外資系の企業で、日本法人の社内にも様々なバックグラウンドを持つ人々がいると伺っているので、グローバルな視点を保ち続けられるよう社会生活を歩みたいと決意することが今回の研修を経てできた。